

# 支援の必要な児童生徒が 安心して学ぶことができる授業

～小学校・中学校での発達障害に対する合理的な配慮の取組～



京都市総合教育センター 研究課  
研究員 西村和浩

# 通常学級において知的な遅れはないものの学習面 又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合

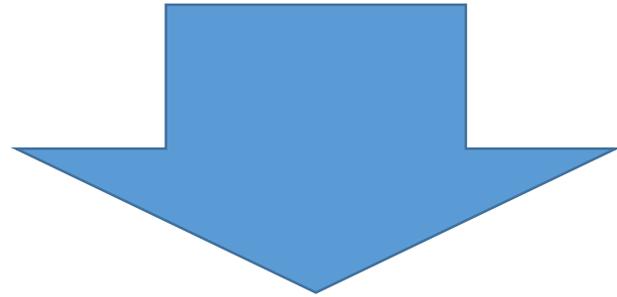
(R4全国調査 小・中合わせて) 8.8% (3.5/40人)

(研究協力校 A小学校では) 18.3% (7.3/40人)

(研究協力校 B中学校では) 11.7% (4.7/40人)

# 研究を通して「目指す姿」

◎発達障害への合理的な配慮を  
チームで取り組むことができる教職員



◎自身の特性と向き合い課題解決に  
向かうことができる児童生徒

# 合理的な配慮とは…？



## 《合理的な配慮》

【合理的配慮】  
保護者との合意

【教育的配慮】  
教職員が必要に応じて行うもの

# 研究の概要

チームで行う複数の視点からのアセスメント

## ① 支援を必要とする児童生徒のアセスメント

短期目標と具体的な支援方法の決定

## ② 支援計画の作成

短期目標の見直し  
UD授業・個別の支援の再検討

## ⑤ 支援計画の見直し 再アセスメント

UD授業の実践・個別の支援

## ③ 支援計画に 基づいた授業・支援

短期目標の達成度を評価  
授業・支援方法の有用性を評価

## ④ 授業・支援の評価

① 支援を必要とする児童生徒のアセスメント

→ 「動画でのアセスメント」 「困りの一覧表」

② 支援計画の作成

→ 「個別の指導計画作成」 「支援への準備」

③ 支援計画に基づいた授業と支援

→ 「授業のUD化」 「通級指導教室」

◎ 授業と支援の評価・支援計画の見直しと再アセスメント

→ 「困りの一覧表への追記」

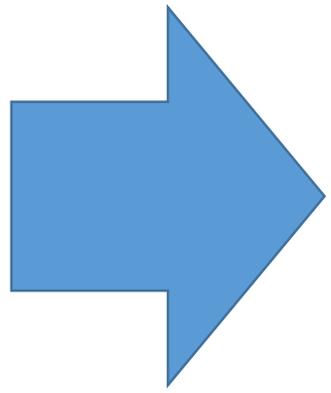
# アセスメント = (事前) 評価

学級担任



1人の視点による見取り

保護者 学校長・教頭  
 通級指導担当者 学級担任  
 養護教諭 S C 教科担任



本人の願い

複数の視点による見取り

# アセスメントを妥当なものにする工夫（小学校）

## 【学級担任の見取り】

### 現在の子どもの姿（小学校2年生）

《できること》

- ・漢字を覚えること
- ・算数の計算
- ・片付け、帰る準備

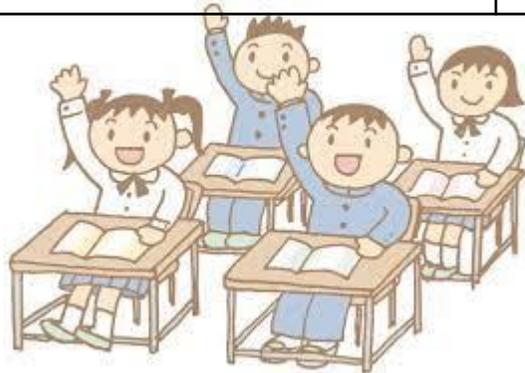
《困っていること》

- ・板書の視写に時間がかかる
- ・話し合い活動に参加できない
- ・友達との距離がわからない。

### 授業の様子を撮影



ケース会議で複数人による  
アセスメント



### 【ビデオから見えた姿】

→ 【なぜ???

### 現在の子どもの姿（小学校2年生）

《できること》

- ・~~片付け、帰る準備~~
- ・好きなものを工作すること

《困っていること》

- ・（片付け、帰る準備）
- ・音声の指示が伝わりにくい。

《その他》

- ・周りの様子を見て、帰る準備を始めた。
- ・動作がわかる動詞での指示が伝わりやすい。

+ 本人の願い

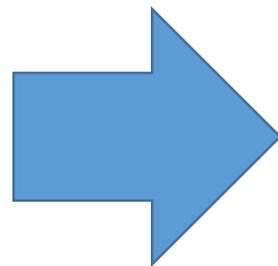
# アセスメントを妥当なものにする工夫（中学校）

## 【支援を要する生徒 困りの一覧表】

名前	診断等	合理的配慮 支援内容	申送り 昨年度の様子	追記欄
B 中学校 生徒 C	診断の 内容	前年度の 支援内容	生徒の様子 ・ 保護者との確認事項	
B 中学校 生徒 D	診断の 内容	前年度の 支援内容	生徒の様子 ・ 保護者との確認事項	

### @ケース会議・学年会等

アセスメント



全体指導  
の工夫



個別の支援

# 【A校 個別の指導計画より抜粋】

## ②支援計画の作成

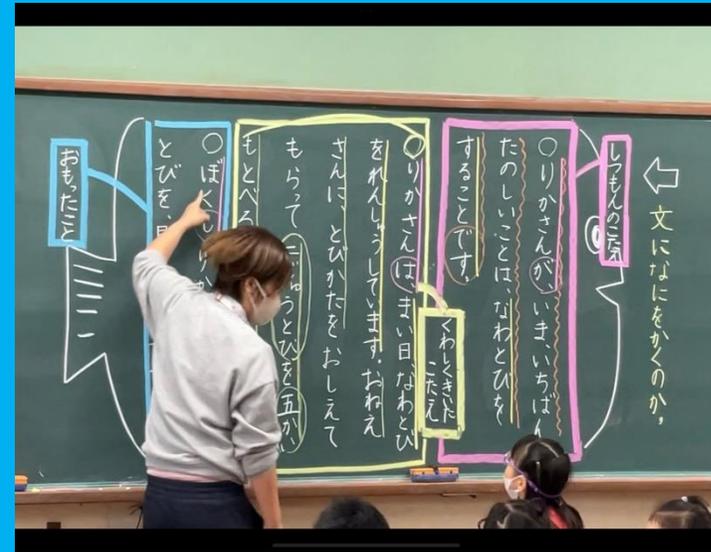
	1学期	2学期	3学期
短期目標	①友だちの名前を覚える。 ②自分がすべきことを理解し、集中して学習に取り組む。	①友だちの名前を覚える。 ②自分がすべきことを理解し、集中して学習に取り組む。	①友だちに思いを伝え、一緒に遊ぶ ②自分がすべきことを理解し、集中して学習に取り組む。

「全体指導の工夫」

+

「個別支援」

具体的支援





# 教職員の姿

## ① 学習者視点

時計と学級目標も  
学習の妨げではないか？



時計は教室側面でも  
良いのではないか？

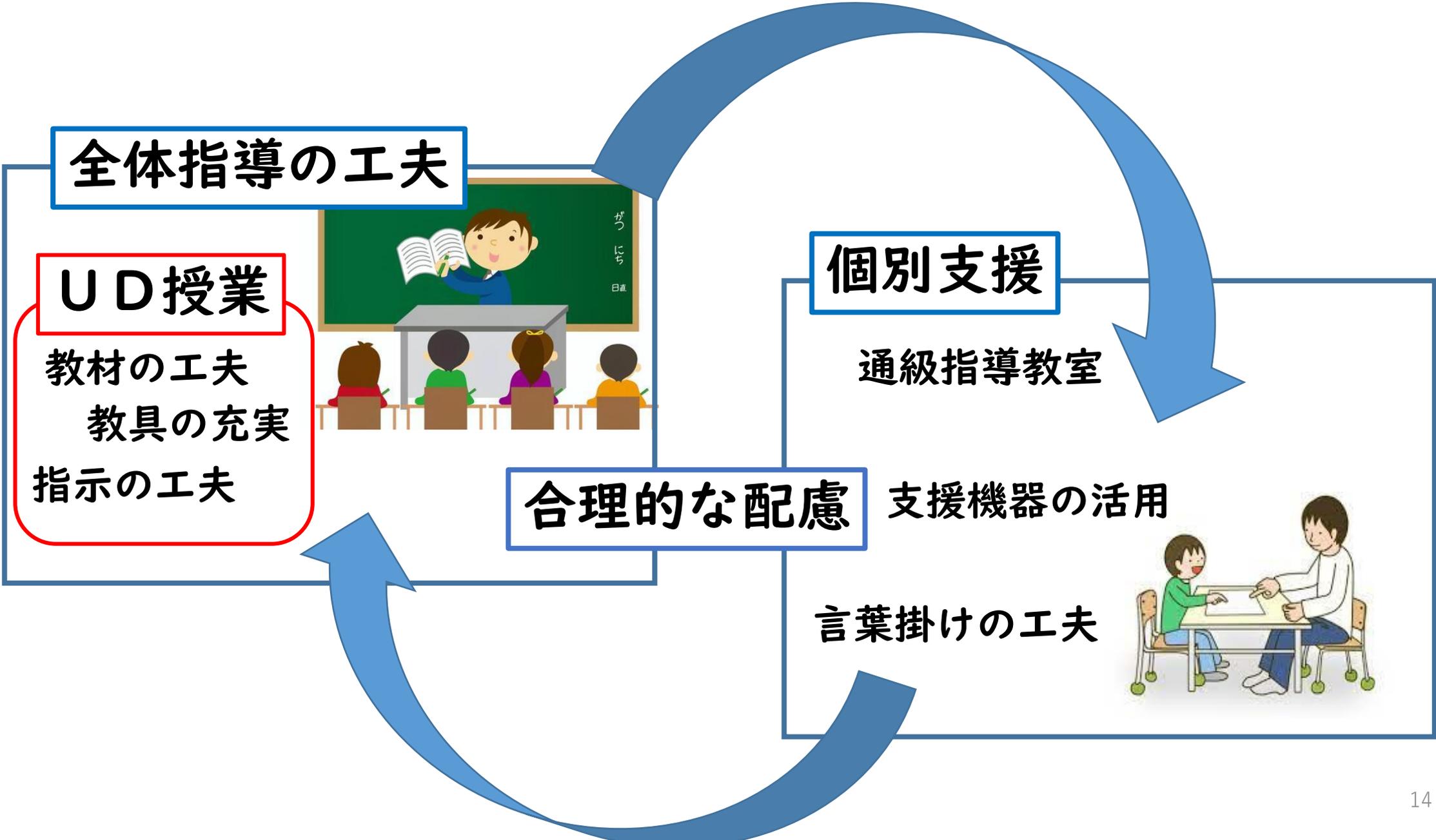


## ② アセスメントの充実

子どもはどのような  
反応をするのだろうか？



授業の様子を撮影  
↓  
ケース会議で複数人による  
アセスメント

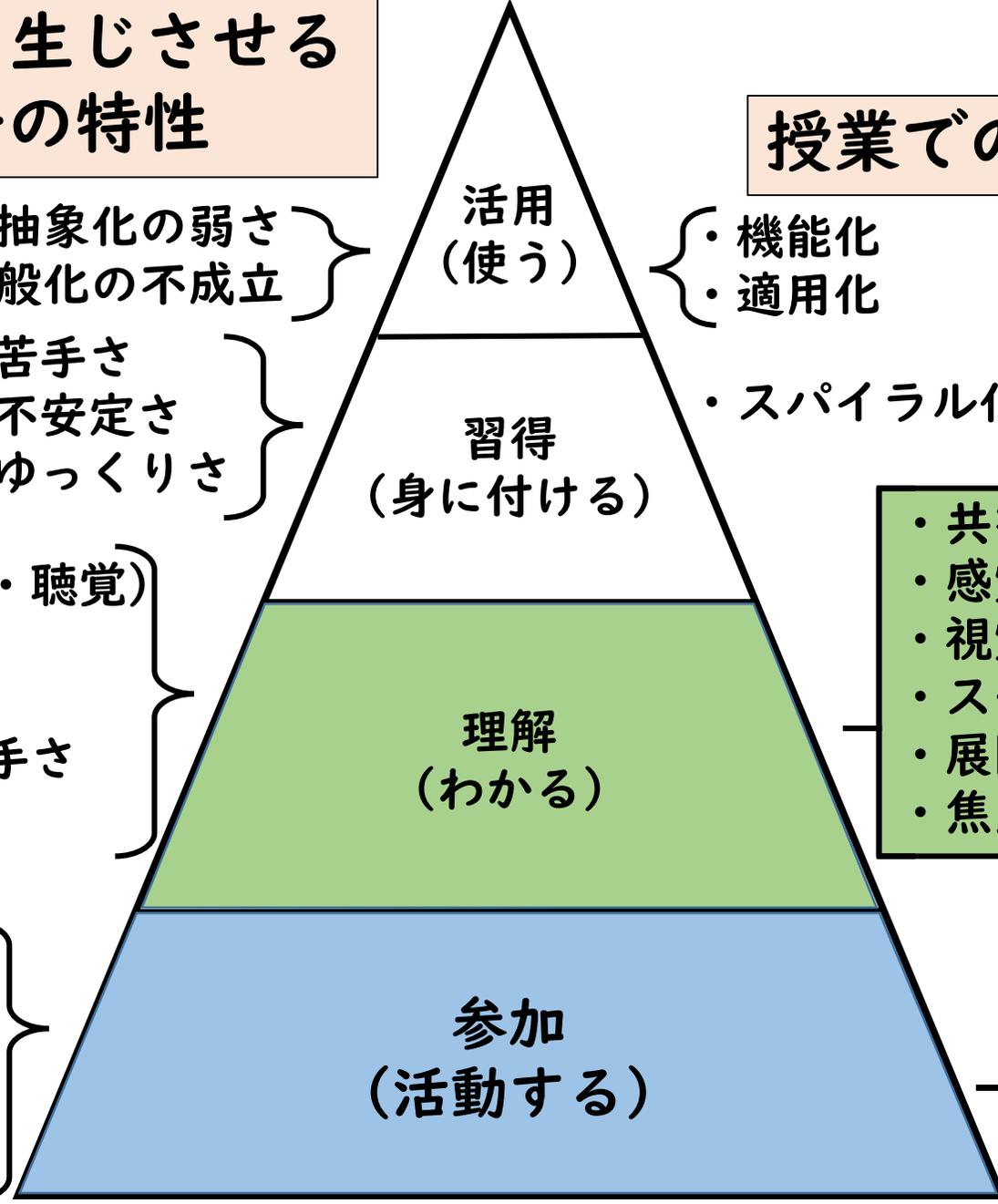


# 授業でのバリアを生じさせる発達障害のある子の特性

③支援計画に基づいた授業・支援

## 授業でのバリアを除く工夫

- ・ 抽象化の弱さ
- ・ 般化の不成立
- ・ 記憶の苦手さ
- ・ 定着の不安定さ
- ・ 理解のゆっくりさ
- ・ 認知のかたより (視覚・聴覚)
- ・ 複数並行作業の苦手さ
- ・ 曖昧なものへの弱さ
- ・ イメージすることの苦手さ
- ・ 学習スタイルの違い
- ・ 状況理解の悪さ
- ・ 見通しの無さへの不安
- ・ 関心のムラ
- ・ 不注意 多動
- ・ 二次障害



活用  
(使う)

- ・ 機能化
- ・ 適用化

習得  
(身に付ける)

- ・ スパイラル化

理解  
(わかる)

- ・ 共有化
- ・ 感覚の活用
- ・ 視覚化
- ・ スモールステップ化
- ・ 展開の構造化
- ・ 焦点化

参加  
(活動する)

- ・ 時間の構造化
- ・ 場の構造化
- ・ 刺激量の調整
- ・ ルールの明確化
- ・ クラス内の理解促進

教育方略の工夫

指導方法の工夫

# 授業への「参加」のための要素

③支援計画に基づいた授業・支援

→学習活動に  
参加している状態

授業でのバリアを除く工夫

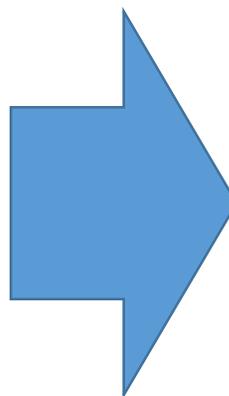
時間の構造化

場の構造化

刺激量の調整

ルールの明確化

クラス内の理解促進



授業でのバリアを除く  
UD化授業実例

時間配分の明示

与える情報の整理

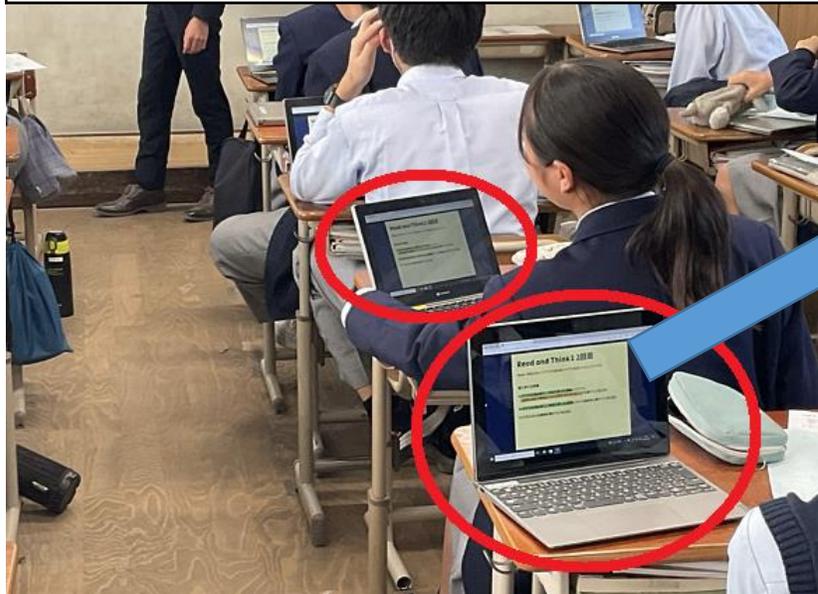
刺激量の調整

学習ルールの明示

自己肯定感づくり

# 授業への参加 「与える情報の整理」(中学校 英語科)

生徒の活動	指導者の活動	◇手だて ○個別支援
Conversation I (テーマI)	クラス内アンケートを用いて会話することを伝える。	◇ <u>ロイロノートで画面共有</u> ○教科書本文を参考に発表できるように促す。



**授業内容**  
※TV画面と同じ



全体 → ◎  
個別 → ◎

# UD化授業実例

## 「参加」

### 補助資料①

③支援計画に基づいた授業・支援

	準備物	指導者の 具体的行動	学習者の 期待される変容	その他
自己肯定感作り				
時間配分の明示				
与える情報の整理	<ul style="list-style-type: none"><li>・板書の計画</li><li>・ロイロノートの計画</li><li>・共有課題設定</li></ul>	黒板、テレビ、学習者のタブレットの、3種類の学びの場を作る。 それぞれ役割を分け、毎時間同様に活用する。	自分のすべき学習課題や、作業が見え、課題に取り組めるようになる。	欠席者にも授業の板書を撮影して送信することができる。 板書の視写は家庭学習にすることも可能である。
刺激量の調整				
学習ルールの明示				

# 授業の「理解」のための要素

③支援計画に基づいた授業・支援

→授業の目標を  
達成している状態

授業でのバリアを除く工夫

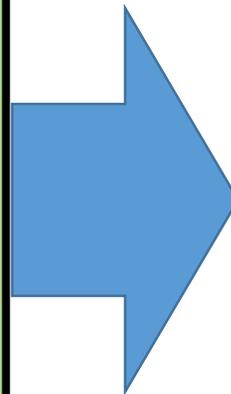
共有化

感覚の活用

視覚化

スモールステップ化

焦点化



授業でのバリアを除く  
UD化授業実例

単元の学習内容共有

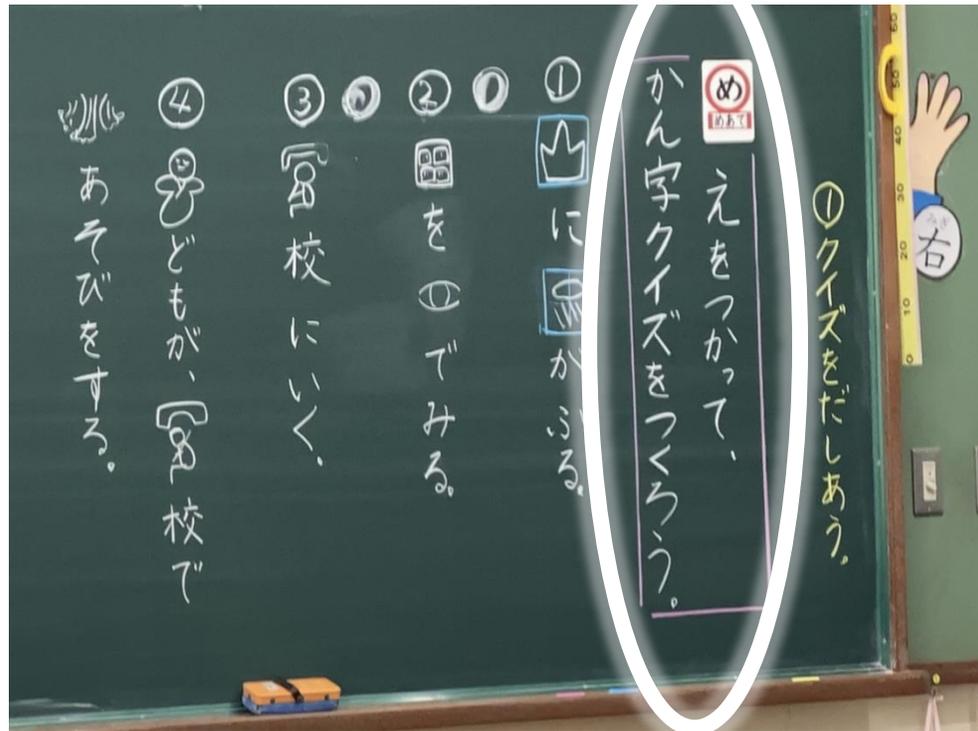
場面の具体的設定

視覚教材の工夫

目標のスモールステップ化

行動できる目標設定

# 授業の理解 「行動できる目標設定」(小学校1年生 国語科)



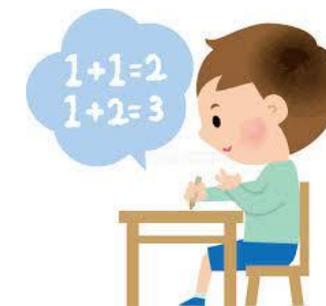
「作る」



「書く」



「たす・ひく」



# UD化授業実例

## 「理解」

### 補助資料②

③支援計画に基づいた授業・支援

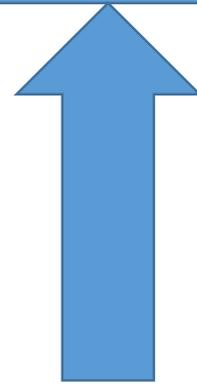
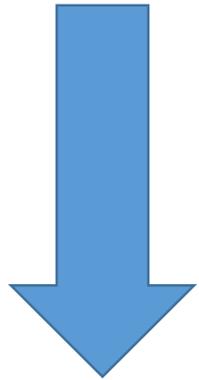
	準備物	指導者の 具体的行動	学習者の 期待される変容	その他
単元の 学習内容共有				
場面の 具体的設定				
視覚教材の 工夫				
行動できる 目標設定	特になし	・「書く」「読む」 などの行動がイメージ できる言葉を使って 目標を言い切る。	授業で何をすれば 評価されるかを理 解でき、授業内で 自分がすべき作業 が明確になる。	行動がイメージし にくい言葉（考え る・理解する）な どが目標になると きは、達成度がわ かる基準を設ける。
目標への スモール ステップ化				

# L D等通級指導教室

③支援計画に基づいた授業・支援

学級での教科の授業

困り



自立活動

通級教室での自立活動

## 通級記録シート

	やること	ひょうか	ふりかえり
1	ひとこと感想	◎ ○ △	
2	算数トレーニング	◎ ○ △	
3	漢字トレーニング	◎ ○ △	
4	集中タイム	◎ ○ △	
5	リラックス	◎ ○ △	

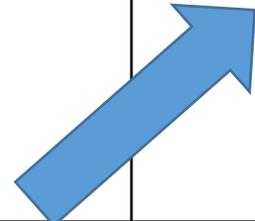
今日の体調 ◎ ○ △ 次回の予定 月 日( ) 時間目

通級担当者 のコメント	担任の先生 のコメント	おうちの人 のコメント

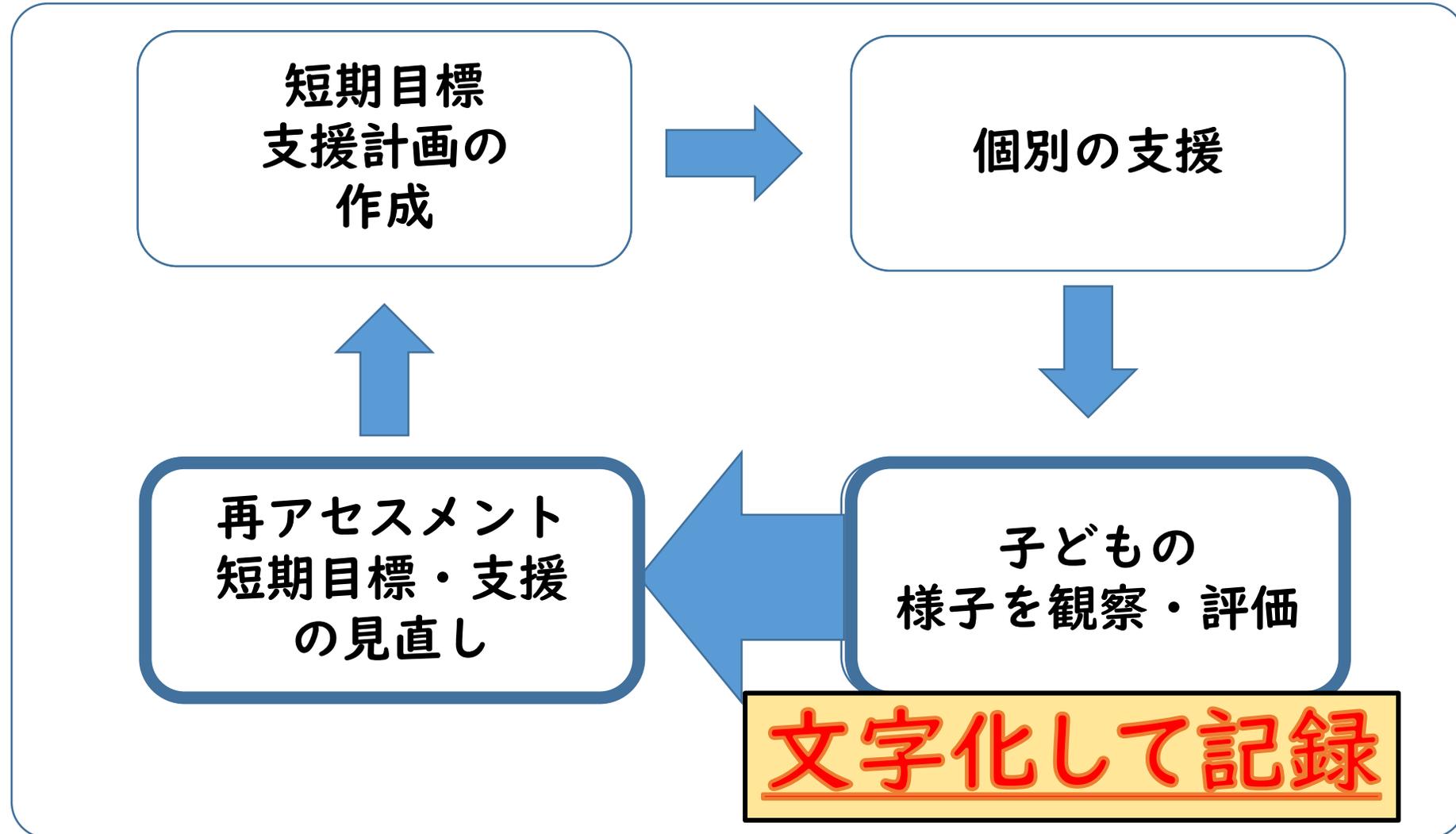
# 通級指導を受けている子どもの変容

③支援計画に基づいた授業・支援

焦点化児童 [4年生] の授業への参加	焦点化児童 [4年生] の授業中の過ごし方	該当教科 (8月)	該当教科 (12月)
レベル3 (児童B自身が「頑張っている」と感じている状態)	本はしまっている。 絵はかいていない。 話を聴いて発表もしている。	通級教室・体育 道徳・図工	<u>理科</u> ・通級教室 体育・道徳・図工
レベル2 (児童B自身が「聞いているだけで参加できていない」と感じている状態)	本・絵の時間 60% 話を聴きいている時間40%	国語・ <u>理科</u>	国語・ <u>算数</u> <u>外国語活動</u> ・ <u>社会</u>
レベル1 (児童B自身が「参加できていない」と感じている状態)	本を読んでいる時間10% 絵を描いている時間50% 話を聴いている時間40%	<u>算数</u> ・ <u>外国語活動</u> <u>社会</u> ・総合的な学習	総合的な学習



# 日々繰り返す短期サイクル と 学期ごとに行う長期サイクル



# 困りの一覧表への追記例（中学校）

名前	診断等	合理的配慮 支援内容	申送り 昨年度の様子	追記欄
B 中学校 生徒 C	診断の 内容	前年度の 支援内容	生徒の様子 ・ 保護者との確認事項	・ 単元によって意欲に差
				・ 複数時にまたがって同じ プリントを使うときにプリ ントがなくなる。
B 中学校 生徒 D	診断の 内容	前年度の 支援内容	生徒の様子 ・ 保護者との確認事項	・ 本文読み（頑張るが苦勞 していた。）
				・ 自分の考えなどが表現し にくい様子がある。

# 成果： 教職員によるアセスメントの変容

通常学級において知的な遅れはないものの学習面  
又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合

7月調査

12月調査

A小学校

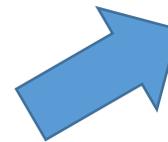
18.3% (7.3/40人)



19.8% (7.9/40人)

B中学校

11.7% (4.7/40人)



15.4% (6.2/40人)

より正確な観察へ

# 支援の必要な児童生徒が

# 安心して学ぶことができる授業

～小学校・中学校での発達障害に対する合理的な配慮の取組～



アンケート用QRコード



京都市総合教育センター 研究課  
研究員 西村和浩